

50th



川越市立霞ヶ関東小学校だより

学校教育目標

たいよう

第11号 令和7年2月28日(金)

- 【た】 たくましい子
- 【い】 生き生きと活動する子
- 【よ】 よく考える子
- 【う】 美しい心の子

一期一会

校長 関根 努

2月は、大寒波で寒風吹き荒れる日もありましたが、春の兆しを感じる季節となりました。さて、いよいよ節目の月、3月を迎えます。学校は卒業と進級の季節となります。

今年度は創立50周年を迎え、様々なイベント（航空写真やバルーンリリース、記念式典、ひまわりフェスタ等）を予定通り実施することができました。節目の年にしか味わえない体験を全校児童で共有することができ、一人一人にとって思い出深い貴重な一年になりました。このような取組を無事実施できたのも、ひとえに実行委員の方やPTA、保護者、地域の皆様の多大なるご支援・ご協力のおかげと、心より御礼申し上げます。

さて、「一期一会」（いちごいちえ）という言葉が耳にされたことがあると思います。「あなたとこうして出会っている時間は、二度と巡ってこないたった一度きりのもの。だから、この一瞬を大切に思い、今できる最高のおもてなしをする。」という意味で茶道に由来することわざです。千利休筆頭の心得を弟子が受け継ぎ、その考えを幕末の大老である井伊直弼が自分の茶道の一番に心得として世に広めたと伝えられています。



好きな言葉や座右の銘として、この「一期一会」をあげる人もいます。「一期一会」は文字通り、一生に一度だけで会う人だけではなく、ある期間お付き合いが続く人、あるいは度々会う人や毎日会う人だからこそ、日々心をこめて接していこうという気持ちにつながるからだと思います。世界の人口が約81億人、そのうち日本の人口は約1億2千万人であることを考えると、現在、世界を視野に入れて霞東小に通っている皆さんが出会う確率は非常に低いもので、この出会いは奇跡と言ってもおかしくはないのです。今の学級のメンバーで過ごせるのもあと一か月ですので、一日一日を大切にして感謝の気持ちで接していきましょう。

3月は、一年のまとめの時期です。各学級で出会った子供たちが、この一年をどのようにまとめあげてくれるのでしょうか。素晴らしいまとめになることと期待しています。特に、6年生は、間もなく卒業を迎えます。この6年間、色々なことがあったことと思います。全ての日を覚えていないかと思いますが、この6年間を振り返り、自分の成長を確かめると、いかに貴重な日々だったかが実感できることと思います。これも、一緒に成長してきた友達との出会いがあったからこそ、と言えるのではないのでしょうか。

そして、4月からは中学生。3月31日と4月1日、たった一日の違いで見える景色は一変します。不安もあることと思いますが、中学校は新しい友達と出会うことのできる場でもあります。一期一会、霞ヶ関東小学校での出会いと同様、進学先の中学校での貴重な出会いも楽しみとして心に描きながら、前へ進んで行ってほしいと思います。

進級を控えた1～5年生の子供たちにとっても、新しい出会いが待っています。次の学年への期待も、日々高まってくることと思います。ますますの活躍を期待しています。